

<p>(氏名) 西沢淳男</p>	<p>(学部) 地域政策学部</p>
<p>1 重要事項</p> <p>研究として、前年度から引き続き東京大学史料編纂所に所蔵されている「代官竹垣直道日記」の翻刻作業である。日記は古代・中世史研究においてはよく利用されるものであるが、近世史研究においても近年利用が活発になってきている。日記には公務は勿論、その時代の生活・文化・風俗や各種通達の写しなど多岐にわたっており、史料翻刻は学会の共有財産として広く活用されていくべきものとして、翻刻の掲載と公開をはじめた。日記は文字が難解な上に紙幅の都合で、学内学会機関誌(『地域政策研究』)に半年分(1冊)の翻刻を発表した。</p> <p>また、「竹垣日記」同時代日記の対比検討史料として東京大学法学部法制史資料室蔵「豊田友直日記」について研究会を組織して刊行のための翻刻作業を開始していたが、本学の研究奨励費(学術研究図書刊行)を得て2019年11月に第一冊目(天保11年)と第二冊目(天保12年)を『飛騨郡代豊田友直在勤日記』1として岩田書院より刊行した。</p> <p>全国の幕府領代官の経歴や赴任地等を網羅した凡そ1300人をデータベース化し、『幕領代官・陣屋データベース—CO-ROM版』として、8月に岩田書院より刊行した。</p> <p>古文書講座で輪読中の史料を広く一般に還元利用してもらうべく、国立公文書館所蔵の「御留守居役手控」1を学内学会機関誌(『地域政策研究』)に翻刻公開した。</p> <p>上記成果である「竹垣日記」「豊田日記」を利用し、「旗本屋敷・役所における初午祭」と題し全国の幕府出先機関における初午の様相を比較検討し、学内学会機関誌(『地域政策研究』)に論文として掲載した。</p> <p>日本城郭史学会平成31年度大会において、「幕領陣屋の構造と構成」と題して研究報告を行った。</p> <p>地域貢献として、赤山陣屋の歴史的価値の確定と埼玉県指定旧跡から史跡への文化財指定変更について、陣屋内案内板変更について、教育委員会へ助言・指導をした。</p> <p>社会貢献として、埼玉県川口市の文化財保護審議会委員及び川口市遺跡調査会理事として、市の文化財保護行政について助言・指導をし、埋蔵文化財調査について指導・監督した。</p>	
<p>2 その他の事項</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>同時代期の幕臣(代官)日記の比較検討のため、翻刻成果公開中である「代官竹垣直道日記」と併行して、2019年度から刊行が始まった『飛騨郡代豊田友直在勤日記』の2の刊行に向け作業を進めていきたい。同時代、且親交があり同職の幕臣日記は希有であり、別に豊田友直の実父「久須美祐明日記」も刊行され、日記を総合的に比較・分析し、地方文書からではみえてこない幕臣の心性、施策を明らかにしていきたい。</p>	